

呼聲

発行責任者 上田高女・染谷丘高校
 東京同窓会 会長 小林 ぶき子
 〒178 東京都練馬区 大泉学園町2-27-11
 TEL 03-3921-7340

会報七号に寄せて

校長 小松 敬弘

皆様にはご健勝のこととお慶び申し上げます。昨年は横浜で楽しい一時を過ごさせて頂きましたが本年は所用の為、出席できず残念でした。皆様方のご活躍を心からお慶び申し上げます。過日、他県にお住まいの方から「染谷はいつから男子が入ったのですか」という問い合わせがありました。本校野球部の活躍を新聞でお知りになった由ですが母校に寄せ頂く卒業生の胸の中にある思いに感銘を深くするとともに責任の重さを痛感した次第でもあります。皆様の母校も今年九十周年を迎えることになりました。百周年を目指して本年は特別な事業は行いませんが時代の変化とともに校舎も太郎山の麓に移って二十余年、男女共学になつて十余年、今は現代っ子の伸び伸びとした明るい笑い声に包まれております。現在生徒数一、三五〇余名、男女比約四対六、学級数三〇の大規模校ですが昨年から生徒数が減

少し始めました。戦後の混乱から経済大国として繁栄してきたわが国の青少年問題も社会を反映してか様変わりしてまいりました。教育課題も山積しております。ご承知の方もあろうかと存じますが、今、本県では学力論議が花盛りです。最近の児童・生徒は学力がない、勉強しない、根性がない等の苦言が呈されおりますが一方では生徒たちが今、時間があつたら何をしたいかという調査結果の第一位は「眠りたい」でありまして、次いで「友達と遊びたい」、「おしゃべりしたい」の順になっております。考えさせられる若者達の姿であります。考えさせられる者として多くの人々の協力を得ながら有為な人材を育てていきたいと念じております。母校の為に変わらぬご支援をお願い申し上げます。一層のご健勝をお祈りしながら筆を擱かせて頂きます。

音楽班の活動

班長 山田みゆき

私達音楽班は、上田染谷丘高校の班活動の中で最も伝統ある班活のひとつです。その活動は在学中に止まらず、音楽班出身の先輩方が「コール染谷丘」という合唱団を作つて、地域社会で活発な活動をなさっているほどです。この音楽班も、一時は人数が少なくなつて心配したこともあつたそうですが、今では一・二年生合わせて十八人います。これからもっともっと人数を増やしてより活発な活動をしていきたいと思つております。

最近、私達が練習成果の発表の目玉にしているのは、染谷祭でのステージ発表です。ここ数年いずれもミュージカルをやりました。89年は「サウンドオブミュージック」、90年は「アニー」、そして91年は「オリバー」と、歌あり踊りありの音楽班ならではの発表をして、皆さんから好評を得ました。

また、その他には「東信合同音楽祭」などの発表会に出席して、東信地区の合唱団の人達とコーラスを通じて

テニスと十一人の仲間達

男子硬庭班 荻原 大樹



ミュージカルを終えて

「一球入魂」まさにこの言葉が似合ふ、我ら上田染谷丘男子硬式テニス班のメンバーを紹介しようと思う。

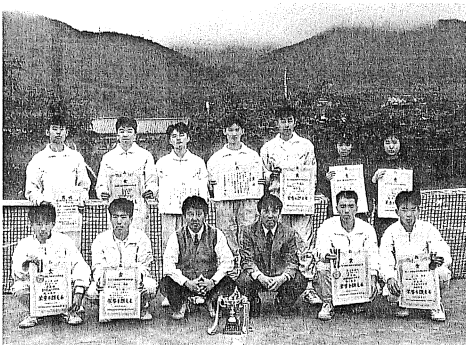
まず班長である春日憲吉である。彼は通称ゴリ吉というその名の通りパワフルでみんなを引っ張って来てくれた硬庭班の大黒柱のような人である。次にキャプテン保坂寛明である。彼は人とは一味違うスイングとハートの持ち主であり、班長と共にこの班をこまめに引っ張って来てくれた。たとえたとすれば「縁の下の力持ち」という存在

交流したり、「コール染谷丘」のコンサートに出演し色々とお勉強させていただいたり、外部でも活発な活動を行っています。そして今年新しく班内コンサートというものを行つて、独唱も交えながら個人の實力を高めようがんばつております。

今後の目標としてまずあげられるものは、班員の人数を増やすことです。新入生が一人でも多く入つてもらえるよう努力したいです。そしてもうひとつは、個人個人の實力をもっと高めるということです。個人の實力が高まることによつて、幅広い演奏が可能になり、染谷祭でのミュージカルをより一層充実したものにしていけるものと思つております。

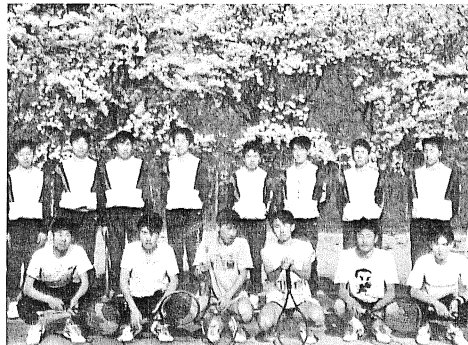
シヨットをはなつのである。花岡和孝は、我らの鏡であり、努力という言葉がまさに似合う人である。そして、高橋知美、小林陽子、彼女らはとてもチャーミング(?)で合宿の時などは、とてもおいしい食事を作ってくれたり、我らの世話をしてくれた。いわばテニス班の「母」である。そして筆者である私を加えた十一人が硬式テニス班の三年生のメンバーなのである。

こんなメンバーがそろつたらテニス班ですが、私達が入班した当時はまさにゼロからのスタートでした。三年生の先輩が少なく、普段の練習もあまり



硬庭部の面々

気合がはいっていきなかつたと思う。でも我らの気合い、やる気、なによりもテニスへの情熱でテニス班は変わったと思う。二年生のときの長野県高校新人戦の団体戦(私は団体メンバーでなかつたが)では、まさに、応援と選手が一つとなり、それまで九連覇して常勝だった上田東高校を破り、ついに優勝、北信越大会出場とまでいったのである。それ以後も、インターハイ出場をみんなの目標にがんばり、三年生最後のインターハイ県予選では決勝で惜しくも敗れ、念願のインターハイ出場にはあとひとつおぼやかせませんでした。北信越大会出場というすばらしい成績をおさめることができました。ここまでこれたのは、やはりみんなの努力と、やる気、そして、テニス班のためだけに多大な熱意をそいでくださった吉岡先生のおかげだと本当に思います。ただ一つ問題があります。それは、ボールが一月もしないうちにぼろぼろになつたり、ラケットのガットが一



前列左端が筆者の荻原君です

同級会

去る五月末、ふるさと信州で、高校7回昭和三十年卒五組のクラス会が開かれました。

アンスの里、森温泉に一泊、翌日は鬼無里へ水芭蕉を見に貸切バスの旅です。担任は小宮山多賀文先生。今回は公務のご都合で欠席されましたが、七十歳近い今も二つの学校の非常勤講師としてお元気に活躍中です。

二十五日夕刻、旧友十九名が森温泉に集まりました。卒業以来の再会もあつてひとしきりざわめく間に、大広間には宴会の準備も完了。幹事Tさんご挨拶に続く乾杯のあとは、自由に席を移してなごやかに交歓。

この温泉、お風呂がとってもきれいで、大浴場の外に野天風呂があり、広々と続く田圃は蛙の声でにぎやかでした。翌朝、八時に貸切りバス到着。心配された雨もなく、宿の前で記念撮影のあとは元氣一杯出発です。昔ながらの明るい声で窓外の風景を丁寧な説明して下さるのは、地元更埴市在住のYさん。期待の水芭蕉はや、盛りを過ぎていたものの、目前にそそりたつ残雪と新緑の山々は美しく、みな思い思いにつれだつて自然歩道を散策。昼食に名物のそばを食べ、帰途、雲上殿と往生寺を見学、あとは一気に長野市へ。集まつて下さった方々のお力添えを感謝し、再会を約束してJR長野駅前に下車、家路につきましました。

週間くらいで切れてしまふなど大変お金がかかることです。もし、この問題が解消されれば、テニス班はもっと強くなると思ひながら話を終わらせたいと思う。



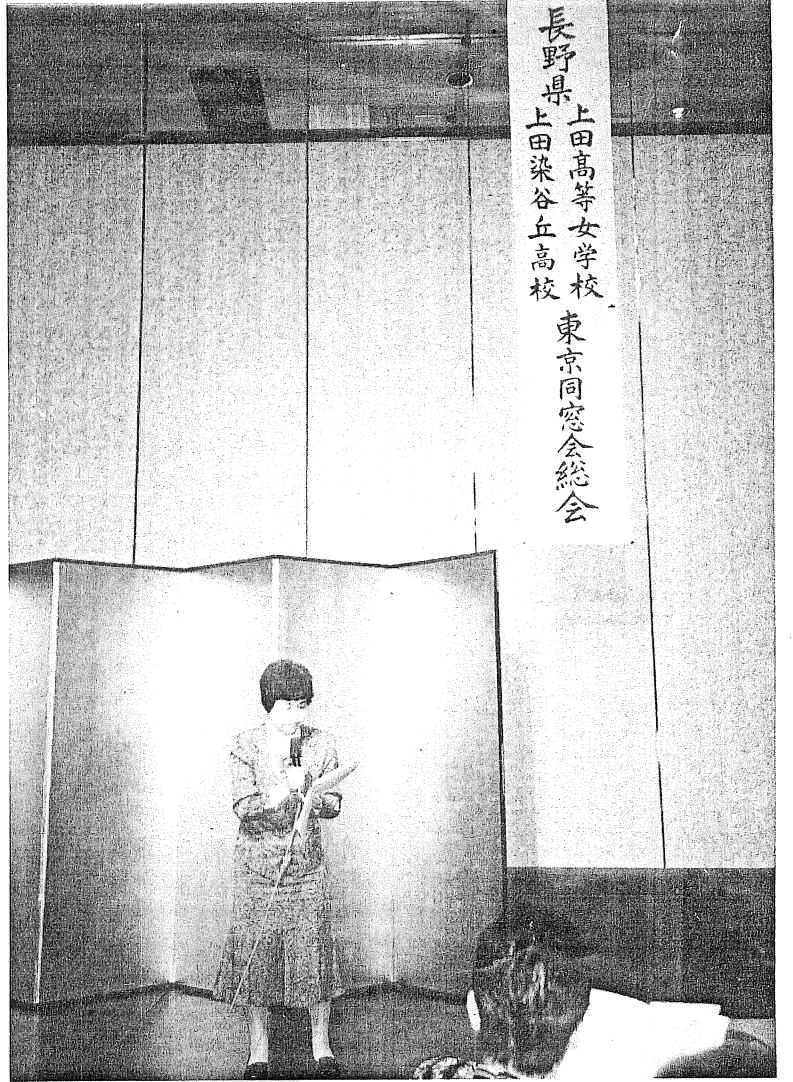
今回1日会長・副会長をお願いした41回卒の皆様
乾杯の音頭をとっていただきました

石井 いし 本科45回卒
小雨が降り出した舞浜の駅はデイズ
ニールランドを目指して行く若者や親子

総 会 報 告

— デラックスな会場で —

連れで賑やかでした。その人達を横目にシャトルバスでホテルへ一直線、新しいホテルばかりが立並ぶこ、は別天地のようでした。受付をすませ席に着いて周りを見廻して若い方が大勢いらしてびっくり、年を感じました。会長さんの御挨拶、会計報告、新役員さんの紹介などの第一部に引き続き第二部の乾杯の声を待ちかねたようにあちらこちらから賑やかな話し声が聞こえてきます。バイキングが始まったお食事は気分を楽にしてくれ第一部の緊張が一度にほぐれる感じで食欲も旺盛、とても和やかな雰囲気にもまれてきます。宴たけなわ、高7回卒山崎さんの素晴らしい歌声に耳を傾けながら、二十数年ぶりの、思いがけなくお目にかかれたお友達と当時の思い出に話が弾みます。私達も山崎さんに負けじと懐かしい愛唱歌を歌い、会に参加している実感を覚えながらのアップという間の二時間でした。今年も新役員さんの交替がありました。新役員さんは全



長野県 上田高等女学校 東京同窓会総会
上田染谷丘高校

独唱中の山崎さん 高7回卒



同窓会が行なわれたシェラトンホテル全景

員高校卒の若々しい方々で頼もしく今後がたのしみです。旧役員さん、長い間本場にご苦勞様でございました。会が終わってからおのぼりさんよろしくホテルの中を案内していただき嘆息の連続で一時間を過ごし帰途に着きました。お当番の皆さん楽しい一日を本当に有難ございました。

新しい同窓会を夢みる

— 提案! 21世紀へ向けて —

東京同窓会会長 小林ふき子
本科41回卒

明けましておめでとうございます。会員の皆様、あなたは、今年にどう期待していらっしゃいますか?

湾岸戦争に明けソ連邦崩壊に暮れ、パールハーバーとモーツァルトで往った一九九一年でした。巷には、狂ったようにモーツァルトの名曲が流れていました。

総てのものが来るべき時代に向け、胎動を始めているのでしょうか。そういえば、長野冬季オリンピックが終わると、もう21世紀です。21世紀が足音高く近づいてきているいま、ここに私は同窓会の改革を提案いたします。

(1) 母校同窓会の組織を整備強化すること。

現在、東京同窓会は、母校同窓会との関係では支部として扱われているが、その成り立ちと会員数の多さから、かなり独立性が強い。この独立性を残しつつ、なおかつ支部の機能を充分に果たすためには、母校同窓会との間を、しっかりとした本部—支部という関係にしないでほしい。それができ、はじめて本部は本部として、支部は支部として機能することができると。

(2) 同窓会が任意団体であることを、はっきり唱うべきである。

同窓会は学校の一部ではない。独立した任意団体であることを、会員は自覚しよう。

(3) 同窓会の経費は、会員の拠出する会費で支弁すべきである。

東京同窓会は、年来この方法をとっている。これに対し、母校同窓会は、新入学の高校生から同窓

会の入会金を集め、これで経費をまかなっているとき。以前は卒業時に納めていた入会金である。

いつの頃から、高校入学時にいただくこととなったのであろうか。未成年の高校一年生が納めた同窓会入会金から、毎年、支部費を受け取っていたと思うと、何とも面映ゆい。

会員から年度会費を拠出していただく場合、その事務処理をどうするか、大問題である。専用の部屋を借り上げたり専従の人を雇うほど会費が集まるわけではないため、結局、その役に当たった役員の方々のご好意に頼って処理しているのが東京同窓会の現状であるが、この会費のおかげで、「呼応」が会員の手が届き、役員会の交通費が出るというわけだ。

会員それぞれ、一会員として対等の存在であるとはいえず、母校同窓会は、組織の頂点に立つものであるから、ご苦勞でも、年度会費を集める任に当たっていただきたい。任意に加入した会員が毎年会費を拠出するのは、会を支えている上であると考えたい。

集まったお金は、各支部の拠出員数に応じて各支部へ割り戻す。各支部は、その額に応じて活動すればよい。

本部は、会報を各会員に送り、また、総会の日時を告知するものとする。その際、年度会費の振り込み依頼を忘れずに。

本部の仕事はかなりの量になると思われるが、これは、お金をかけることで解消をはかることができよう。重ねていうが、同窓会は学校ではない。したがって、同窓会の仕事は、学校職員の方々の当

然になすべき仕事ではないということ。ことを肝に銘じ、別途、仕事を消化する方法を検討すべきであろう。

新幹線が走れば、もう、東京も上田も一つです。上田で総会ありときけば、東京から多数とんでいき、東京で、というときは、上田からそろって遊びにきてくださるといふ日も近い今、ぜひ皆様に「一考いたしたたく、年明け早々ですが、書き連ねました。

私は、母校あつての同窓会、母校同窓会あつての東京同窓会であると信じます。同窓会は会員相互の親睦向上と母校の発展に協力することを目的として存在する、学校からは独立した任意の団体であることを再確認し、一日も早く、より一層強力な組織に生まれ変われることを期待して、この稿を終りいたします。

編集後記

☆梅の便りを耳にするほど暖かいお正月でした。木々を飛び交う小鳥のさえずりも心なしか弾んで聞こえるこの頃です。

☆「呼応」も回を重ね、第七号を発行する運びとなりました。これもひとえに、皆様のご協力の賜物と関係者一同深く感謝いたしております。

☆小林会長から、新しい同窓会づくりが呼びかけられました。これは、あくまでも一つの提案ですが、同窓会そのものを考え直すときがきているのではないのでしょうか。

☆皆様はどうお考えでしょうか?ご意見、お考え等をぜひ事務局までお寄せくださいませ。異論・反論・オブジェクションで特集が組めれば幸いです。

☆貴花田の優勝、小嶋・松野両選手の日本記録更新—若さは動詞です—同窓会も若い体質づくりに挑戦しましょう。

